

ルーセントデンタル  
クリニック院長

後藤 英夫

<略歴> 1998年、東京医科歯科大学歯学部卒業。名古屋大学医学部遺伝子再生医療センター医員、国立長寿医療センター歯科口腔外科勤務などを経て、2008年からルーセントデンタルクリニック副院長。2011年から院長。

歯科医院のホームページで最近よくみかける「審美歯科」という言葉。私は個人的にはなんとなく違和感を覚える言葉です。前歯の治療では機能面だけではなく審美面も考慮することは当たり前のことで、何も「審美歯科」というのは特別なものではありません。ただ治療法の分類をする時に便利なので「審美歯科」という言葉を使つていると考えて下さい。

「審美歯科」の中に皆さんが受けたことは、皆さんがあまり特別視されないことなく、治療法の一つの選択肢として気軽に考えていただけます。それでも治療法は「病気」ではありません。審美歯科においては患者さんの希望が治療を決めていきます。

どうやって決められるのでしょうか。齲歎（うしょく）や歯周病（うしゅうびょう）が最も重要なのがあります。「病気」を相手にする治療とはここが違う。「歯並びや歯の色がきれいではない」という状態は基本的に決して決して違います。求められる最終ゴールから矯正が必要なのが、ホワイトニングが決まります。必要なのか、オールセラミックを用いないのが決まります。それらも勘案し「実現可能なゴール」が決定します。

## 求められる最終ゴール

まれています。レジン充填（じゅうてん）（白い樹脂（きじ）のつめもの）やクラウン（さし歯）があります。何か特別感がある治療法といえれば、ラミネートベニア、オールセラミッククラウンです。

## 審美歯科はコミュニケーションが大切

ア（表面だけセラミックをはりつける治療）、ホワイトニング、矯正、インプラントでどうか。オールセラミック（表裏だけセラミックをはりつける治療）、ミックスといふのは、ミックスのことを言っているのであって、治療法ではありません。

## 審美を達成するための治療法

- 充填処置（レジン充填など）
- 硬質レジンクラウン
- ラミネートベニア
- オールセラミッククラウン
- ホワイトニング
- 矯正治療
- 歯周外科
- インプラント

患者さんの希望に応えるために必要な治療法を組み合わせ、審美を達成する。要求が高くなるほど、保険適応の治療法だけでは対応できなくなる。

それらもまた、治療前にしっかりとコミュニケーションをとつて、左に左右されますから、歯科医師と患者さんが治療前にしっかりとコミュニケーションをとつて、洋服を決める時にお店の人にはアドバイスはしてくれるかも知れませんが、決定はあくまでお客さんの好みで決まるのと同じです。歯科医師だけで治療法や治療結果を規定できるものではないのが「審美歯科」です。